

令和5年度農作物鳥獣被害防止対策研修 クマ対策について ～出沒対応の連携を考える～



澤田誠吾
(島根県西部農林水産振興センター 県央事務所)

本日の内容

- ① ツキノワグマの基本生態
- ② 保護管理のポイント
- ③ 錯誤捕獲
- ④ 出沒対応について（関係機関の連携）

本日の内容

- ①ツキノワグマの基本生態
- ②保護管理のポイント
- ③錯誤捕獲
- ④出没対応について（関係機関の連携）

■ : 環境省(2004)の分布確認地点

■ : JBN調査による分布拡大地点

日本クマネットワーク(2014)「ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡大の現状把握と軌轢抑止および危機個体群回復のための支援事業」報告書より引用。



クマ類の分布状況

ツキノワグマの基本的な生態

- 朝方と夕暮れ時を中心に行動。
- 植物を中心とした雑食性。

しかし、ばったり遭遇したり、追いつめられると、相手を一撃して逃げようとします。

(食べ物への学習能力が高く執着する)

- 12～4月頃まで樹洞や土・岩穴で**越冬**し、この間にメスは普通2頭の子を産む。
- 寿命は20年程度。繁殖率は低い。
- **子グマを連れた母グマは強い！！**
- **一般に考えられているよりも臆病で、おとなしい性質。**

ツキノワグマの身体能力

体重: オスは60~150kg メスは40~80kg

体長: 100~130cm **体高**: 50~60cm

耳(聴力): 良く聞こえる。
高音に敏感。

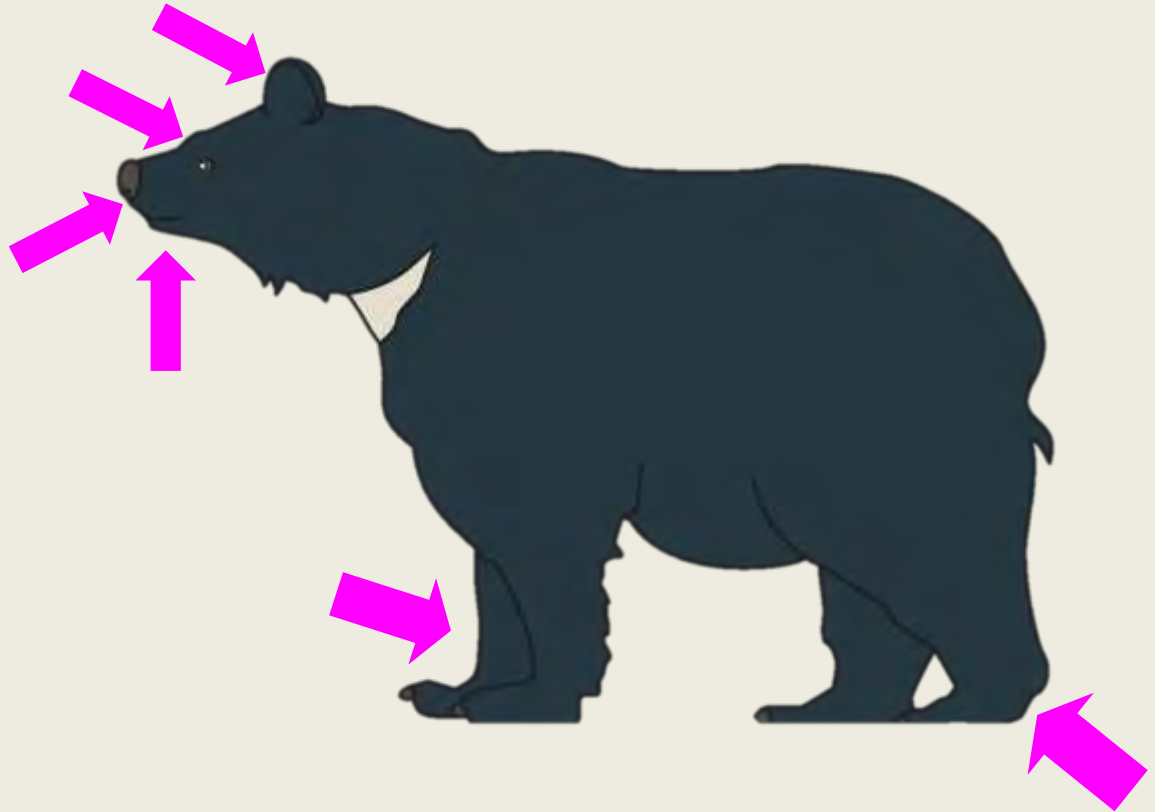
目(視力): あまり良くない。

鼻(嗅覚): かなり優れている。犬並。

噛む力: 強い。

手: 鋭い爪を持つ。
クマにとって最大の武器。

足: 速い。100mを8秒？
木登りも水泳も得意！



冬眠

出産

冬眠中は何も食べません。

12～4月頃まで冬眠します。
冬眠中にメスはふつう2頭
の子グマを出産します。



冬

春

体力
回復

ブナやコナラなどの新芽、ササ、ハナウド、フキなどの草本



子グマは1歳半頃
まで、母グマと一生
に生活します。



秋

夏

栄養
蓄積

コナラ、ミズナラ、クリなどの堅果類、クマノミズキ、クロキ、サルナシなどの液果類



冬眠に向けてたくさん
食べます。十分に栄養
をとることができたメス
だけが妊娠します。



繁殖

ハチ、アリなどの昆虫類、ヤマザクラ、クワなどの液果類



繁殖期になるとオ
スが活発に活動
するので行動域
が広がります。



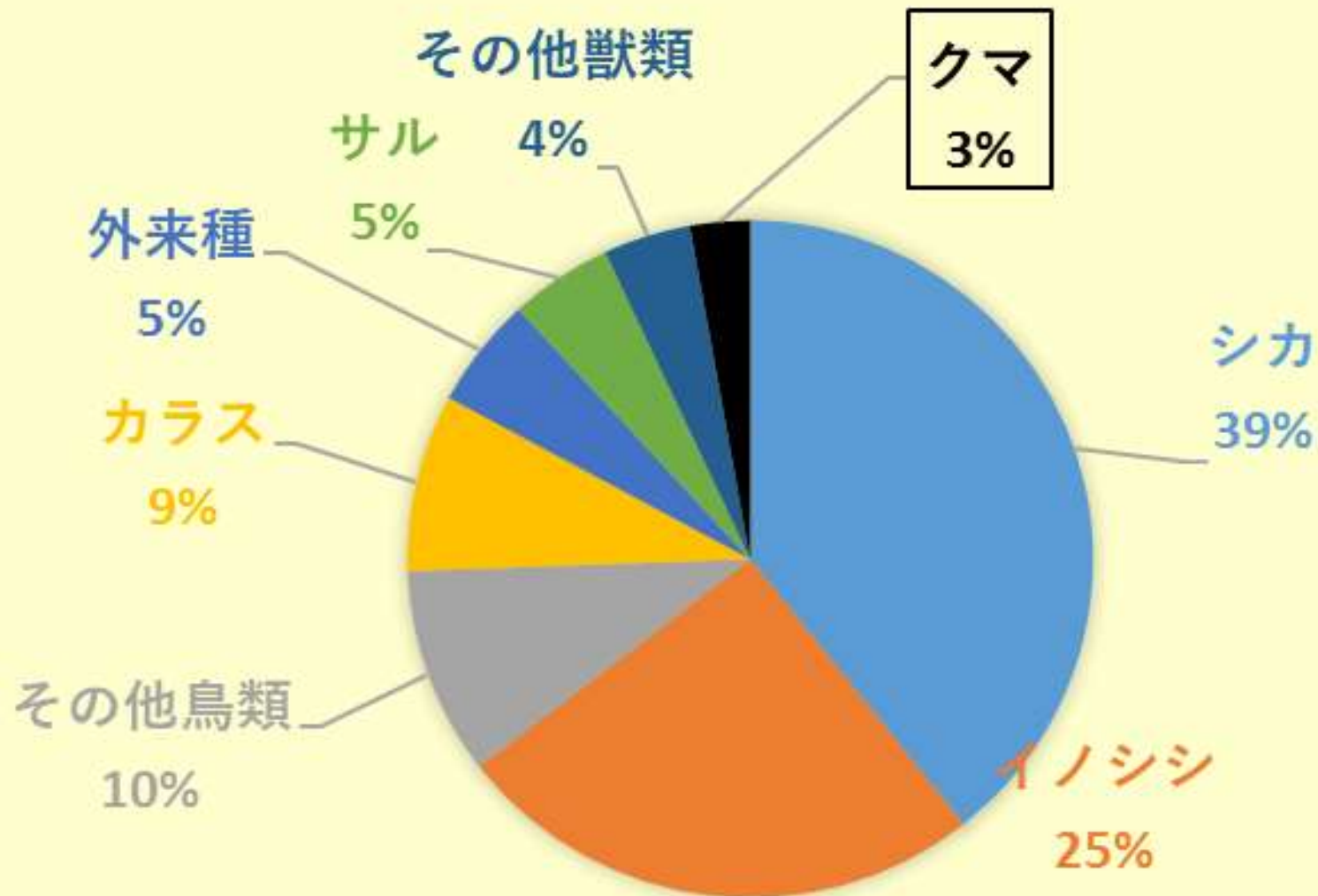
ツキノワグマの行動の特徴

- ・行動圏(個体差が大きい)。

オス(成獣)⇒ $40\sim 70\text{km}^2$ 、メス⇒ $20\sim 30\text{km}^2$

- ・特定のなわばりをもたない。
- ・夜行性と思われがちですが、森に暮らすクマは昼行性。しかし、人里に下りてきて活動するときは、人との接触をさけるために夜行性になることが知られている。

※堅果類などの餌資源が少ない年には餌を求めて行動圏が2倍以上に拡がり、「大量出没」となることが多い。



(単位：百万円)

シカ	イノシシ	その他鳥類	カラス	外来種	サル	その他獣類	クマ
6,097	3,910	1,542	1,313	822	752	641	438

野生鳥獣による農作物被害金額(2021年度)
農林水産省HPデータより作成



養蜂巣箱の被害



民家庭先の力キ木の被害



クリの被害



ニワトリの被害



民家の壁に営巣した蜂巣の被害



濃厚飼料の被害



家庭から出た生
ゴミへの被害



20cm

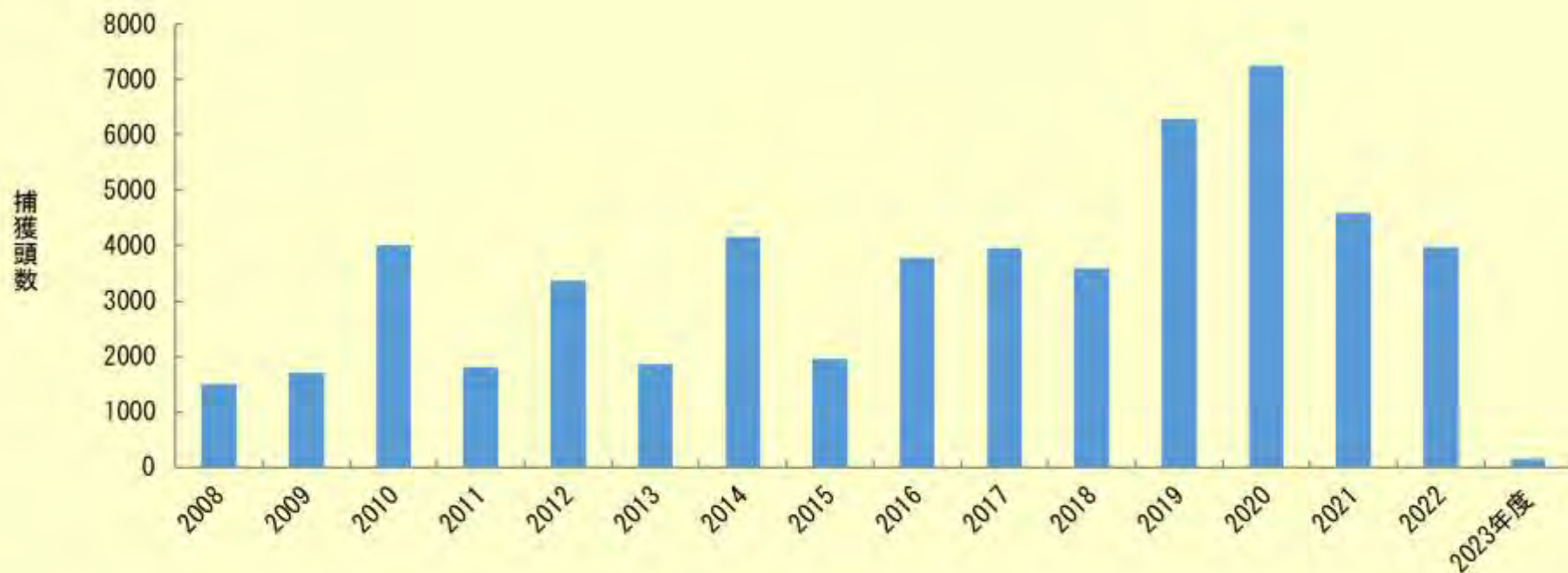
20cm

20cm



クマ類による人身事故件数【速報値】 2023年度4月末現在

環境省HPデータより作成



クマ類の捕獲数（許可捕獲数）【速報値】 2023年度4月末現在

環境省HPデータより作成

本日の内容

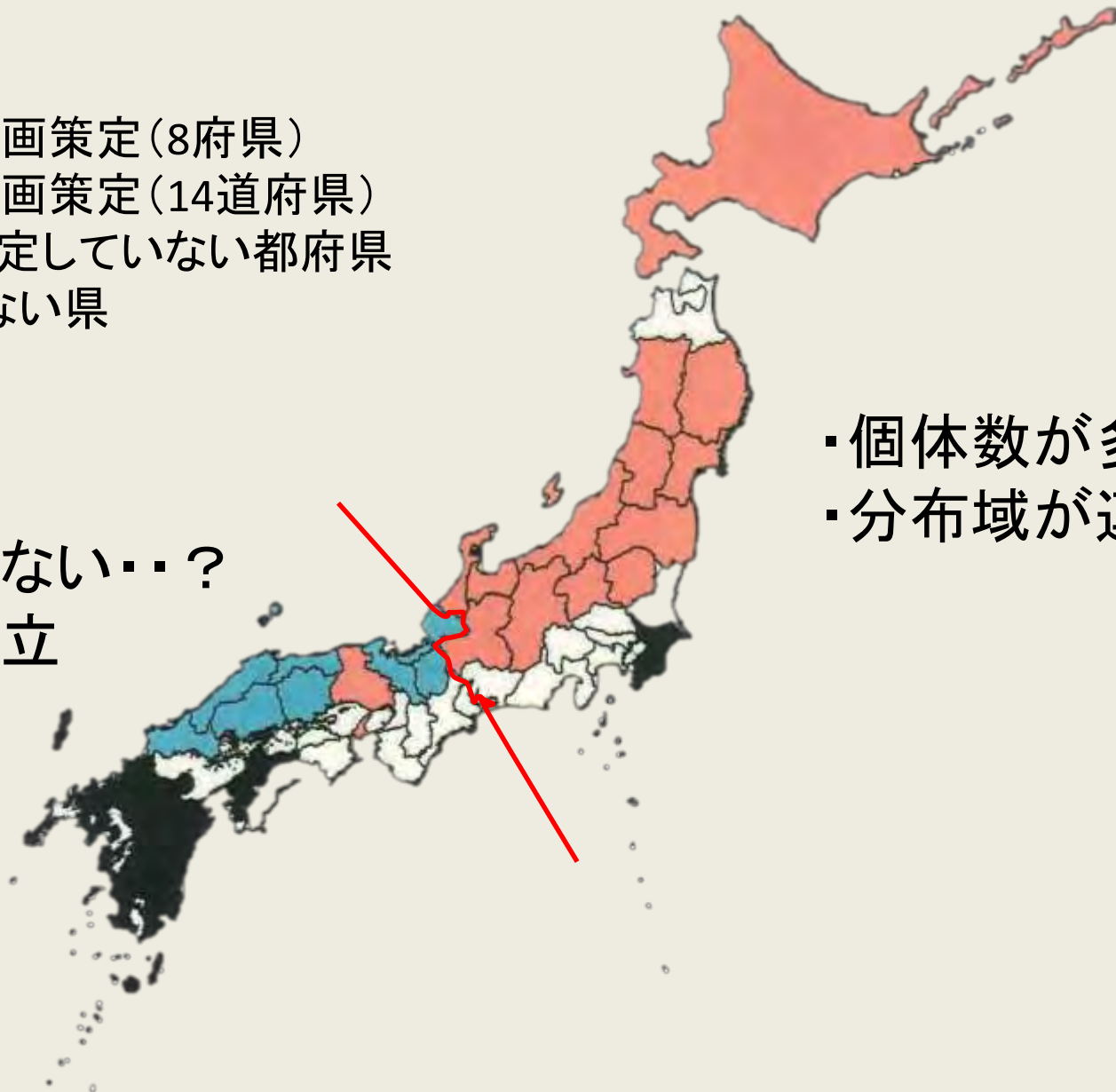
- ①ツキノワグマの基本生態
- ②保護管理のポイント
- ③錯誤捕獲
- ④出没対応について（関係機関の連携）

クマ類の保護及び管理計画の状況(2021年度まで)

- : 第一種保護計画策定(8府県)
- : 第二種管理計画策定(14道府県)
- : 特定計画を策定していない都府県
- : クマが生息しない県

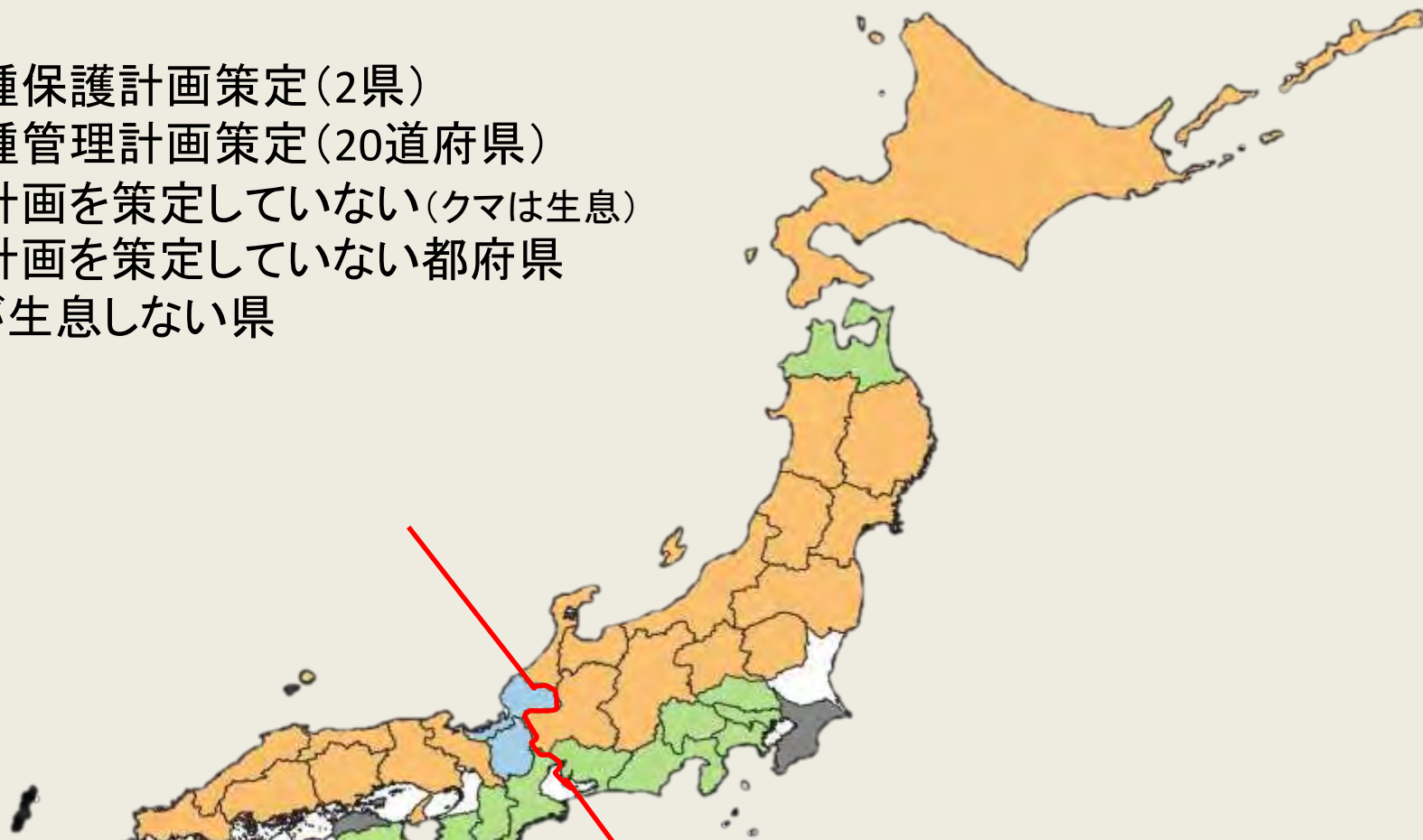
- ・ 個体数が少ない・・・？
- ・ 分布域が孤立

- ・ 個体数が多い
- ・ 分布域が連続



クマ類の保護及び管理計画の状況(2022年度)

- : 第一種保護計画策定(2県)
- : 第二種管理計画策定(20道府県)
- : 特定計画を策定していない(クマは生息)
- : 特定計画を策定していない都府県
- : クマが生息しない県



- ・どちらの計画も「人身事故の防止及び農林業被害の軽減」、「地域個体群の長期にわたる安定的な維持」を目標に定めている。
- ・目標を達成するために各地域に適した4本柱を運用していく。

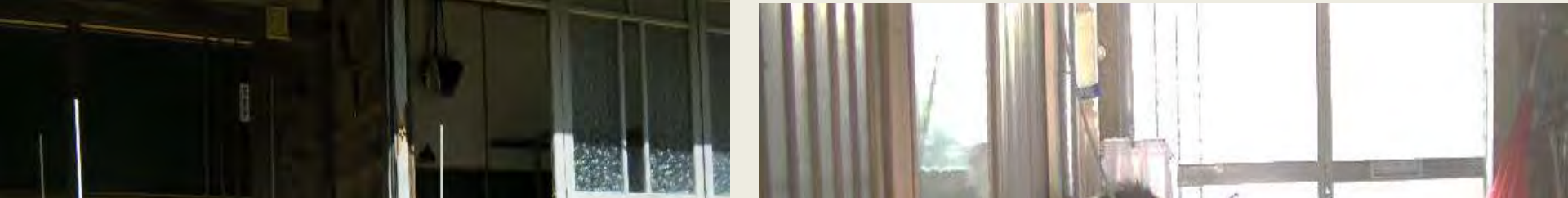
保護管理を進めるが・・・



多くの課題が山積みしている

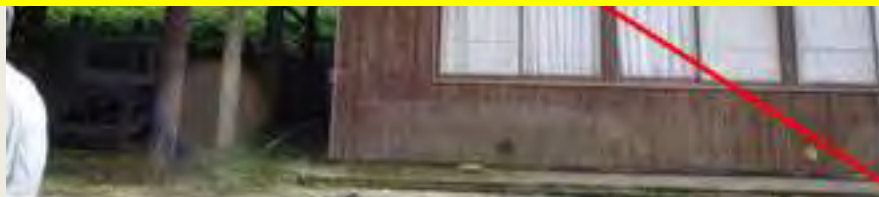
- 分布域の拡大⇒人間活動周辺に出没
⇒地域住民と都市住民の意識のズレ
- 繰り返す大量出没
- 錯誤捕獲の増加
- 体制の整備，人材育成（確保）





地域住民にとって許容できる範囲ではない！

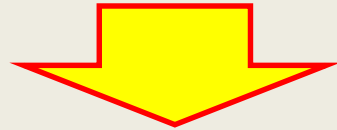
分布拡大や個体数の増加によって引き起こされる人とツキノワグマの軋轢をいかに防ぐかという困難な課題に対し、関係者が難しい舵取りを迫られる時になった。



クマ類の保護管理のポイント

【課題】

- ・生息状況が把握しにくい
- ・出没時、被害発生時の対策手段が少ない
- ・地域住民と都市住民との考え方の差が大きい



【対応方法】

- ・生息の多寡によらず、事前に防げる被害には対策を実施し、被害が発生した場合は、被害を最小化する現場対応が必要。
- ・事前対応の徹底化 → 生息・出没状況の把握が重要。
- ・被害発生への対応 → 迅速な対応ができるように事前に対応方針、対応内容、対応者を定めておく。

行政間の役割分担と連携体制

都道府県

- ・生息と被害に関するモニタリング
- ・対応方法と関係機関の役割分担・協力体制の構築
- ・対応技術、対応実施の支援

市町村

- ・被害防止のための情報収集と住民に対する正確な情報の周知
- ・事前対応（誘引物管理）、地域との合意形成と対策の実施
- ・許認可、出没に対する対応

国

- ・モニタリングデータの蓄積・分析（支援）
- ・クマ類の現場対応の技術支援

研究機関